

2 教育・文化・地域愛

2-1地域で育む子育て支援

2-2-1明日を生きる力を育む学校教育
(学校教育)

2-2-2明日を生きる力を育む学校教育
(阿智高校の存続と発展)

2-3子どもが健やかに育つ保育園

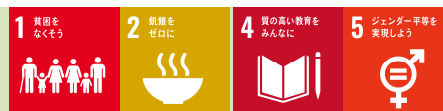
2-4社会教育の充実

2-5スポーツで育む健康、交流

2-6文化活動と地域文化の振興

2-1

関連するSDGsの目標



地域で育む子育て支援

[教育委員会 子育て支援室]

施策目標 5年後の阿智村を見据えて

子どもが健やかに成長できるよう子育て環境を整備し、子どもとその家庭を理解し、支援する地域づくりをめざします。

現状と課題

子育て支援事業では、0歳から18歳までの児童とその家族に対し、地域の拠点として交流と学びの場を提供し、相談や援助、関係機関と連携した組織的支援を行うため、令和元年度に子育て世代包括支援センター及び阿智村子ども家庭総合支援拠点「あちっ子プラザ」を開設しました。子どもが家族や地域に愛着を持って成長していくことができる施策の展開に努めてきましたが、現在のコロナ禍を通して、子育て家庭のたいへんさと子育てにおける家族を基盤とした養育環境や家族の繋がりが重要になることが改めて浮き彫りとなりました。あわせて感染症等の流行下でも機能できる施設環境の整備の研究も必要となり、家族を支援する社会や地域の力と環境、社会的な養育の仕組みを構築していく事業展開が課題です。

子どもの権利擁護を主体とする世界的なSDGsの取り組みを参考に、すべての子どもに適切なサービスやサポートを提供し、子どもや子育てに対する意識の多様化を受容し、協力体制を得ていくための学習や交流の場の充実も必要です。乳児期をスタートとし、保育園から18歳までライフステージが変わっても継続的に支援する特別支援教育や発達に関するネットワークを活用し、包括的な支援と各機関との連携体制をより充実させ、切れ目ない支援をめざします。

学童保育事業は、就労家庭と利用児童の増加に伴う環境整備と国の定める有資格職員の配置増員等の充実を図り、待機児童ゼロを継続しています。今後も安心安全な学童保育のために国や県の災害対策に沿った防災防犯の整備を強化していきます。

また、保護者の就労状況に関わらず、村内すべての小学生の放課後の居場所づくりとなる放課後子供教室を継続し、地域の大人との多様な体験や活動を通し心豊かな成長を図ります。地域の中で共に子どもを育てていくためにも、地域の人材活用を考えながら、大人も子どもも安心して過ごせる場所、地域づくりをめざします。コロナ禍により経済格差が進み、7人に1人といわれる子どもの貧困問題に取り組みます。

施策の基本方向

(1) 子育てを応援します。

施策の展開	取組内容
<p>① 子育ての応援</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 子育て世代包括支援センター兼市町村子ども家庭総合支援拠点小規模A型「あちっ子プラザ」の機能の充実と見直しを図り、市区町村こども家庭センター（仮称）への移行について検討します。 ○ 妊娠期から子育て期、18歳までの児童とその家庭への総合的相談や支援を実施します。 ○ センター機能および業務内容の明確化と充実を図ります。 ○ 専門職や有資格者の配置を継続し、切れ目のないきめ細やかな支援に努めます。 ○ アウトリーチ型※の家庭支援の展開について検討します。 ○ 家庭のニーズに対応した託児、一時預かり、病児病後児保育 等のサービスを各機関と連携して提供します。 ○ 子育て家庭、乳幼児の育児や児童の生活等のサポートを行う人材を育成し、活用を図ります。 ○ 0歳から18歳までの要支援児童台帳の整備を継続し、保育園から高校まで各機関連携の上、切れ目のない支援を行います。 ○ 発達障がいについて理解を深める機会を設け、学校や地域の中でともに育ちあっていく環境や体制の充実を図ります。 ○ 不登校・不適應児童への対応として学校と連携を図りながら、教育支援センターを運営します。 ○ 子育て支援ネットワーク協議会（要保護児童対策地域協議会）の機能を強化し、児童虐待重大事故等の未然防止に努めます。 ○ 個々のケースに応じて関係機関との連携を図り、迅速かつ的確な対応をします。 ○ 児童虐待防止、子どもの権利擁護、里親制度等による社会的養育推進についての周知活動や取組を計画し、実施します。 ○ 保護者のニーズに沿った学童保育事業を運営します。 ○ 学童保育待機児童ゼロを維持する施策を継続します。 ○ 安心安全な学童保育のための環境整備を強化します。 ○ 職員の質の向上を図り、集団はもちろん配慮が必要な児童への支援を行います。

<p>① 子育ての応援</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 子どもの居場所づくりに係る緒事業の研究や視察に取り組みます。 ○ 地域や大人とのあたたかなつながりの中で、子どもの成長や自立を促す育成支援を行います。 ○ 放課後子供教室を実施し、地域と連携しながら充実を図ります。 ○ 子どもの貧困について研究を深め、計画策定を進めます。
<p>② 子ども・子育て支援事業計画の策定</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 令和2年度施行の阿智村第2期子ども・子育て支援事業計画（令和2年度～令和6年度）に基づき、事業を展開します。 ○ 令和4年度に第2期計画前期の振り返り検証を行います。 ○ 児童福祉分科会等で住民からの意見を聞く機会を設けます。

▶用語

※アウトリーチ型

地域や保護者の実情に寄り添い届ける支援やサービスのこと。出張広場、相談、訪問支援、訪問型家庭教育支援等

（2）親子の交流の場と機会を広げます。

施策の展開	取組内容
<p>① 親子の交流の場づくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「子ども広場」「つどいの広場」を継続し、親子の交流の場を確保します。 ○ 幼児教室を継続実施し、年齢に応じた子どもの発達、関わり方等について情報提供と学習の場を提供します。 ○ 家族が参加する機会を設け、親子を中心とした家族の交流の場を作ります。
<p>② 地域との交流の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域の中のさまざまな人材や環境を活かした交流の場や機会を計画します。 ○ 中高生を対象とした乳幼児触れ合い体験を実施します。

(3) 学習の機会と情報を提供します。

施策の展開	取組内容
① 情報の提供と学習活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「子育てカレンダー」「ひろば通信」を通して情報提供を行います。 ○ ホームページやSNSを活用し、即時性の高い情報提供や相談業務に対応します。 ○ 保護者、家族をはじめ、子どもや子育てに関わるすべての人が子どもや子育てについて学習する機会を設けます。 ○ 子どもとの関わり方や遊び等に悩む保護者へ対して専門家からのアドバイスやカウンセリング等を受ける機会をコーディネートします。
② 食事に関する学習会の開催	<ul style="list-style-type: none"> ○ 食に関する学習会を開催し、地域の食材を活かした料理や地元の伝統料理、行事食や調理法について学ぶ機会を設けます。
③ 思春期学習会の開催	<ul style="list-style-type: none"> ○ 中学生を対象とする性教育を継続実施します。

成果指標

指標名	基準値 (基準年度)	目標値(R9)			備考
		数値	単位	期間等	
子育て支援事業利用数	1,475 R3(2021)	2,212	組	年間	延べ数
学童保育待機児童数	0 R3(2021)	0	名	年間	
放課後子供教室年間参加児童数	1,191 R3(2021)	1,786	名	年間	延べ数

2-2-1

関連する SDGs の目標



明日を生きる力を育む学校教育（学校教育）

〔教育委員会 学校教育係〕

施策目標 5年後の阿智村を見据えて

子どもたちがより良い未来社会を切り拓き、自己の夢を実現するための資質・能力を確実に育成するため、知識・技能の質をさらに高めるとともに、探究的な学びを推進することにより、思考力、判断力、表現力、学びに向かう力等確かな学力を育成します。また、体験活動や体育・健康、道徳・人権教育、ふるさと学習等を充実させることにより、豊かな心や人間性、健やかな身体を育成します。

現状と課題

新学習指導要領は小学校が令和2年度、中学校が令和3年度から全面導入されました。育成すべき資質・能力の三つの柱は「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」です。導入される具体的内容は、小学校では「英語」（外国語）、「プログラミング教育」、「道徳」です。中学校では「英語」（外国語）、「プログラミング教育」です。

村教育委員会は村内小中学校と一体となり新学習指導要領の目標達成を支援します。

先ず、「英語」（外国語）では、英語教育担当専門主事2名とALT3名を配置して授業と教員をサポートします。また、小学校からの英語検定早期受検のため、受検料の村費補助と対策講座の開設を実施しました。ICT教育については、学習の基盤となるコンピュータや情報通信ネットワーク等の情報手段を活用するために必要な環境の整備に努めてまいりました。ICT教育担当専門主事の配置や児童生徒一人一台のタブレット端末の配備等は、折からのコロナ禍の影響により一挙に環境整備が全国的に進みました。

「道徳教育」等による豊かな心や人間性、健やかな身体の育成については、子育て支援室と連携した「児童虐待」「特別支援・発達障がい」「いじめ・不登校」に対応した3つのネットワーク会議を立ち上げ対応しています。教育支援センター（中間教室）や通級指導教室サテライト教室の開設も進みました。また、阿智中クラブのチャレンジゆうA c h iの講座化による社会体育への移行や部活動指導員の導入等による中学校女子バレーボール部の活躍等も見られました。

今後の課題は、コロナ禍で一層加速化した出生数の減少に伴う小学校5校体制の在り方の検討や、小中学校海外オンライン交流や算数・数学検定等に向けた学力向上支援、様々な特性・多様性を持った児童生徒への支援の拡充があげられます。また、施設整備面では、ここ数年の猛暑で進展した空調設備やICT機器のさらなる整備が必要です。

○小中学校児童・生徒数の推移

（単位：年度・人）

	H30 2018	R1 2019	R2 2020	R3 2021	R4 2022	R5 2023	R6 2024	R7 2025	R8 2026	R9 2027
阿智第一小学校	159	168	156	160	144	144	148	130	130	126
阿智第二小学校	88	85	85	77	86	67	68	61	59	53
阿智第三小学校	48	53	56	55	63	56	53	49	45	43
浪合小学校	38	39	41	34	39	32	28	24	22	18
清内路小学校	24	21	19	22	26	24	24	31	29	27
計	357	366	357	348	358	323	321	295	285	267
阿智中学校	202	195	190	186	183	192	174	193	169	182

施策の基本方向

（1）児童生徒の学力向上や心身の成長を支援します。

施策の展開	取組内容
① 児童生徒の学力向上、心身の成長への支援	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各小中学校に村費特別支援教育支援員や心の相談員を配置して、発達特性や不登校の児童生徒を支援します。 ○ 小学校に理科支援員や音楽支援員、算数専科教員を配置し、学習活動の充実を推進します。 ○ 小学校に教育支援主事、放課後学習支援員を配置し、授業改善や放課後を利用した学習の支援を推進します。各種学校教育専門主事の配置により教科やICT、キャリア教育等の指導に努めます。 ○ 小学校新学習指導要領に対応したALTの授業時間拡大を図り、海外の学校とのオンライン交流を推進します。 ○ 中学校の教育活動と一体になった村営「若駒アカデミー」を継続します。 ○ 学校司書を配置し、村内小中学生の読書活動を充実します。 ○ 小中学校9年間を一貫した「ふるさと学習」を編成、体系化します。 ○ 児童数減少に対応した複式学級の導入を図ります。 ○ 満蒙開拓平和記念館と連携した人権教育を推進します。

（2）向学心あふれる学校づくりを支援します。

施策の展開	取組内容
① 小学校間・小中学校間の交流・連携の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○ 信州型コミュニティスクールを推進し、地域と一体となった学校運営の充実と学校間連携を図ります。 ○ 総合学習、行事等を充実させる「阿智村版人材バンク」を作成し、学校間での活用を推進します。 ○ 小規模校間の遠隔授業や行事の交流を推進します。
② 中学校キャリア教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域の企業、事業所と連携したキャリア教育を充実します。
③ 中学校部活動の強化	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各種部活動を支援する部活動指導員を配置します。
④ ICT教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○ ICT教育専門主事を配置し、ICT活用、遠隔地の学校間交流、教員研修を推進します。
⑤ 各種検定・資格等の取得	<ul style="list-style-type: none"> ○ 英語、数学等の各種検定や資格の取得を促進します。

（3）家庭・地域と連携し、生活習慣の改善と生きる力を育成します。

施策の展開	取組内容
① 「あちっ子ライフ」事業の推進による生きる力の育成	<ul style="list-style-type: none"> ○ 規則正しい生活習慣を身につけるために、小中学校と保育園が連携した「あちっ子ライフ」事業の継続・発展を図ります。 ○ むし歯予防と治療率の向上を図ります。 ○ 小中学生のSNS依存症予防のための啓発をします。 ○ 小学5年生を対象にした通学合宿を継続し、自立心や社会性、モラルの醸成を図ります。
② 学校給食の充実と食育	<ul style="list-style-type: none"> ○ 阿智村産米及び「地域食材の日」の村費補助により食育を推進し、安心、安全な給食を提供します。
③ 通学路の安全確保	<ul style="list-style-type: none"> ○ 阿智村通学路安全推進会議による通学路の安全対策を推進します。

（4）施設設備を整え、よりよい教育環境をめざします。

施策の展開	取組内容
① 施設設備の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○ ICT機器・ソフト等を整備・拡充します。 ○ 老朽施設の改修、空調設備の増設、照明器具のLED化等を計画的に行います。

（5）学校課題に対応します。

施策の展開	取組内容
① 児童虐待、特別支援、いじめ不登校に対応したネットワーク会議の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○ 児童生徒の生活実態に対応した援助や支援のあり方を検討します。 ○ 「子育て支援ネットワーク会議」「児童・生徒支援ネットワーク会議」「生活・生徒指導ネットワーク会議」の3会議により安心・安全で、いじめや校内暴力のない教育環境を構築します。

（6）小学校の在り方について検討します。

施策の展開	取組内容
① 小学校のより良い教育環境の検討	<ul style="list-style-type: none"> ○ 5校体制を基本としながら、児童減少に対応した学級や授業、集団生活の在り方、学校間連携等について検討します。 ○ 小規模校学校課題研究委員会において小学校の今後の在り方について検討します。

成果指標

指標名	基準値 (基準年度)	目標値(R9)			備考
		数値	単位	期間等	
タブレット持ち帰り学習	40% R4(2022)	100	%	年度	
小学生地域行事参加率	87% R4(2022)	95	%	年度	
中学生部活動加入率	80% R4(2022)	90	%	年度	
若駒アカデミー受講率 中学3年生時	62% R4(2022)	90	%	年度	
中学校卒業時英語検定 3級以上合格者	39% R3(2021)	50	%	年度	

2-2-2

関連するSDGsの目標



明日を生きる力を育む学校教育（阿智高校の存続と発展）

〔教育委員会 学校教育係〕

施策目標 5年後の阿智村を見据えて

持続可能な村づくり、地域社会の存続のために高校教育が果たす役割は重要です。第2期長野県高等学校再編・整備計画が進展する中、地元の中山間地存立校である阿智高校は持続可能な村づくり、地域づくりと密接に関わる学校として捉え、その存続と発展を支援します。

現状と課題

阿智・平谷・根羽3村で構成する阿智高校協力は、阿智高校の存続と発展を下伊那西部地域全体の課題として捉え、地域社会の核となる有為な人材の育成と確保をめざして支援活動を推進しています。

令和3年9月に策定・公表された第2期長野県高等学校再編・整備計画【二次】では、南信州地域（旧第9通学区）の再編・整備方針は「飯田OIDE長姫高校の夜間定時制課程に多部制・単位制の機能を補完する仕組みを構築する」とし、高校配置については継続的検討とされました。他地域で都市部存立普通校の再編・統合が進む中、南信州地域では中山間地存立校の規模の縮小が深まる厳しい状況が続いています。令和3年度は、阿南高校に続き阿智高校までが募集学級数2学級に削減されました。

神坂学習塾の運営経費補助を主体に、地域政策コース（農業・福祉・観光3エリア）への人的支援等を行っている阿智高校協力会ですが、急激に進む生徒数減少に対応した有効な支援を打ち出せないのが現状です。

施策の基本方向

（1）阿智高校の存続と発展を願う諸団体の活動を支援します。

施策の展開	取組内容
① 阿智高校関係者、支援団体等との情報交換と連携	<ul style="list-style-type: none"> ○ 阿智高校関係者、阿智高校を支援する諸団体と情報交換し、連携を図ります。 ○ 阿智高校の存続と発展について研究を重ねます。
② 阿智高校支援団体の支援	<ul style="list-style-type: none"> ○ 阿智高校を支援する諸団体（阿智高校協力会、阿智高校応援隊、阿智高校同窓会等）を支援します。

2 教育・文化・地域愛【2-2-2 明日を生きる力を育む学校教育（阿智高校の存続と発展）】

（2）阿智高校との交流活動等を進めます。

施策の展開	取組内容
① 保小中高連携の実施	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「子育て支援ネットワーク会議」「児童・生徒支援ネットワーク会議」「生活・生徒指導ネットワーク会議」において情報を共有し連携を図ります。 ○ あちっ子期（保育園～高校）の子どもの心や体について、小中高の養護教諭、保育士、保健師と連携し施策を実施します。
② 学力向上、部活動における交流を推進します。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 阿智高校「神坂学習塾」と阿智中学校の「若駒アカデミー」及び中高部活動の交流を推進します。

（3）阿智高校生徒の進学を支援します。

施策の展開	取組内容
① 阿智高校学習塾への支援	<ul style="list-style-type: none"> ○ 阿智高校協力が運営している「神坂学習塾」を支援します。
② キャリア教育への協力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 阿智高校が設置している地域政策コース（農業・福祉・観光）でおこなうキャリア教育実習に協力し、生徒を受け入れます。
③ 自治体推薦制度による進学支援	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自治体推薦制度により、飯伊8高校の阿智村出身生徒の進学を支援します。

成果指標

指標名	基準値 (基準年度)	目標値(R9)			備考
		数値	単位	期間等	
神坂学習塾受講率	31% R4(2022)	40	%	年度	
自治体推薦制度による 大学進学者数	1名 R3(2021)	1	名	年度	

2-3

関連する SDGs の目標



子どもが健やかに育つ保育園

[保育園]

施策目標 5年後の阿智村を見据えて

新「保育所保育指針」に基づき、心身ともに健全な子どもの発達を図る保育を実施するとともに、多様化する保護者のニーズを把握し、保育時間の拡充と未満児保育の充実をめざします。

また、子どもが地域の中で様々な人と関わりをもつことで社会性を育てながら、各園の地域性を活かした特色ある保育を進めます。

現状と課題

令和元年10月より3歳以上児の保育料が無償となり、同時に3歳未満児も含めて低所得世帯の保育料等の軽減が行われました。村ではさらに独自の軽減を図るとともに、3歳以上児に主食の提供を開始し、全ての園で自園給食を行っています。

あふち保育園が建築から10年余が経過し、他の保育園も30年から40年が経過しようとしています。智里西保育園を令和2年に改築し、各園に空調設備の整備、LED化、給食設備の整備、園庭の芝生化を行うなど保育環境の整備に努めてきましたが、施設の老朽化に伴い計画的に維持・修繕を行う必要があります。

年々未満児保育の利用希望が増加し、令和4年度は3歳未満児の約半数が利用する状況です。智里東保育園に未満児棟を増築し、あわせて職員を確保して未満児保育の定員を増加します。

3歳未満児の利用者の増加に伴い、延長保育の利用も増加しています。保育標準時間の11時間保育に対応しているのは現在あふち保育園のみですが、職員を効率的に配置し、延長保育対応園の拡充に努めます。

乳幼児は、日内でも体調が著しく変化します。感染症など保育士では判断できないこともあり、アレルギー対応など医療行為を求められることも必要となるため、保健師等保健スタッフの配置が望まれます。

要支援児童については支援担当職員を配置し、子育て支援室や臨床心理士、保健師と連携して理学療法士による保育指導などの対応を進めています。

平成29年に保育指針が改訂され、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が示されました。保育園で行われる保育が小学校以降の生活や学習の基盤を作るといわれ、幼児教育の重要性が謳われています。保育園では恵まれた自然環境を活かし、あそび（経験）を通して主体性や創造力を育み、子どもの心身の発達を促す保育を行い、学校へ接続するため保小の連携を進めます。また、引き続き保育士の各種研修への参加と保育研究会を行い職員の資質向上に努めてまいります。

職員の負担軽減や業務の効率化を図ることを目的に、全国的にICTの導入が進められています。郡内でも導入する保育園があり、ICTの活用を進めます。

○保育園児数の推移（ ）は未満児数を再掲（単位：人）

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
あふち保育園	104 (40)	106 (44)	103 (42)	98 (40)	96 (40)	97 (40)
伍和保育園	38 (7)	38 (6)	29 (5)	30 (6)	25 (8)	28 (8)
智里東保育園	29 (4)	30 (8)	20 (5)	20 (8)	26 (10)	26 (10)
智里西保育園	7 (0)	6 (0)	8 (0)	7 (0)	9 (0)	9 (0)
浪合保育園	8 (3)	11 (5)	10 (4)	13 (3)	10 (2)	9 (2)
清内路保育園	16 (1)	13 (3)	14 (0)	13 (2)	17 (2)	15 (2)
広域入所	3 (3)	2 (2)	2 (0)	2 (0)	2 (0)	2 (0)
計	205 (58)	206 (68)	186 (56)	183 (54)	185 (62)	186 (62)

※令和2、3年は3月末、令和4年は7月1日現在、令和5年以降は推計

施策の基本方向

(1) 公立保育園として多様なニーズに対応できる運営をめざします。

施策の展開	取組内容
① 保護者や家庭のニーズに対応する保育施設、制度の整備	<ul style="list-style-type: none"> ○ 保育施設を整備し、環境を整えます。 ○ 職員数を確保し未満児保育、延長保育の要望に対応します。 ○ 保健師または養護教諭を配置します。

(2) 生きる力の基礎を作る保育を進めます。

施策の展開	取組内容
<ul style="list-style-type: none"> ① 特色ある保育園づくり ② 小学校へつなぐ保育の実施 ③ 基本的な生活習慣の意識づけ ④ 子どもたちのコミュニケーション能力の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各園の特色を活かした保育を実践します。 ○ 子どもを主体とし、知的探求心を伸ばす保育を実施します。 ○ 小学校との連携を図ります。 ○ 英語あそびを継続します。 ○ 生活習慣の意識づけを継続します。 ○ 高齢者や地域との交流を進めます。

(3) 一人ひとりの子どもに合わせた保育を行います。

施策の展開	取組内容
<ul style="list-style-type: none"> ① 要支援児童の情報の共有を図ります。 ② 発達支援、保護者支援の研修を実施します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 発達特性に応じた保育を行います。 ○ 子ども支援担当職員、臨床心理士の配置を継続します。 ○ 要保護児童対策地域協議会との連携を継続します。 ○ 保護者支援・子育て支援・障がい児保育等の研修に参加します。 ○ 地域の子育てを支援します。

（4）食育の充実を図ります。

施策の展開	取組内容
① 給食献立の充実、家庭への情報提供、歯磨き習慣づくり等の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○ 畑活動を通じて、食への関心を高めます。 ○ 食育計画による年齢別の食育指導を継続します。 ○ 献立カードやホームページを利用し、家庭への情報提供を継続します。 ○ 箸・スプーンの持ち方、姿勢の大切さを啓発します。 ○ 噛むことの大切さを伝えます。

（5）子育て世帯への経済的負担を軽減します。

施策の展開	取組内容
① 村独自の負担軽減を行います。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 村独自の減免制度を継続します。 ○ 3歳以上児に主食を提供します。 ○ 物的支援を導入し保護者の負担軽減を図ります。

（6）職員の育成と働く環境を整えます。

施策の展開	取組内容
① 職員の働きやすい環境整備づくりと保育士等の育成	<ul style="list-style-type: none"> ○ 職員の働き方について研究します。 ○ 保育実習生の受け入れを行い、後継者となる保育士等職員の育成を目指します。 ○ 保育園のICTの活用を進めます。

成果指標

指標名	基準値 (基準年度)	目標値(R9)			備考
		数値	単位	期間等	
延長保育実施園数	3 R3(2021)	6	園	延べ	
未満児保育実施園数	4 R3(2021)	6	園	延べ	
ICT化	0 R3(2021)	30	台	延べ	

2-4

関連する SDGs の目標



社会教育の充実

[教育委員会 社会教育係]

施策目標 5年後の阿智村を見据えて

生活や地域を対象とした村民の自主的自発的な学習の場、住民・団体の交流活動の場として公民館・図書館の役割を維持強化し、社会教育活動を活発に行います。

現状と課題

社会教育・生涯学習に対して、時代の変化に対応した、多様な学習が求められる一方で、公民館利用者や学習会等参加者が固定化しています。加えて、施設の老朽化や新しいニーズに対応できる社会教育施設の整備がハードソフト共に求められています。

○図書貸出し冊数の推移

(単位：冊)

	H25 (2013)	H26 (2014)	H27 (2015)	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)	R元 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)
貸出数	38,467	36,332	38,457	38,506	38,913	37,245	36,636	34,361	41,212

施策の基本方向

(1) 公民館として文化の振興、生活に根差した自主的自発的な学習を支援し、地域課題を見出すなど、住民自治を学習的側面から担います。図書館として村民の読書活動を支援します。

施策の展開	取組内容
① 公民館活動への支援	<ul style="list-style-type: none"> ○ 公民館の施設・設備を充実させ、利用者の利便性を高めます。 ○ 公民館利用団体を支援します。 ○ 地区公民館の活動を支援します。 ○ 公民館報・恵那山などで公民館活動を広報します。

<p>② 学習への取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 阿智村社会教育研究集会や公民館セミナーなど、地域課題、多様な学習テーマや青年から高齢者まで各世代にわたる学習会を実施します。 ○ 次代を担う青年の活動を支援し、二十歳を祝う会（仮称）など若い人の交流の場を企画していきます。 ○ 高齢者に向けて老後の設計・生きがい・健康など生涯現役の学習機会を作ります。
<p>③ 読書活動の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 幼児から高齢者まで全ての世代を対象に読書支援を行います。 ○ 本の相談（レファレンス）の充実を図ります。 ○ 職員やボランティアによる読み聞かせ活動の充実を図ります。 ○ 作家、本の専門家などの講演会を行います。 ○ 蔵書スペースや利便性向上のため、図書館ネットワークの広域連携について検討します。

成果指標

指標名	基準値 (基準年度)	目標値(R9)			備考
		数値	単位	期間等	
社会教育研究集会 参加者数	223 R1(2019)	200	人	年度	
図書館貸出冊数	41,212 R3(2021)	42,000	冊	年度	
公民館報・公民館だより 発行回数	23 R3(2021)	25	回	年度	中央館・地区館

2-5

関連する SDGs の目標



スポーツで育む健康、交流

[教育委員会 社会教育係・公民館]

施策目標 5年後の阿智村を見据えて

幅広い世代が継続的にスポーツに取り組める環境を整備し、地域内の交流・健全育成が図れる村をめざします。

現状と課題

従来のスポーツの他に新たなスポーツも普及し、人口の少ない地方でもスポーツ環境の充実を求める人が増えてきています。

また、ウォーキングなど健康志向をはじめスポーツへの参加目的が多様化してきている中、総合型スポーツクラブ、チャレンジゆう A c h i は継続会員が定着している一方で、クラブの継続的な安定運営が課題となっています。

今後も多様化するスポーツニーズに応え、スポーツ人口を増やすために、指導者体制の整備や社会体育施設の整備が求められています。令和9年には第82回国民体育大会、第27回全国障害者スポーツ大会が長野県で開催されるなど、これらをスポーツに親しむ契機と捉え、村民にアピールしていく必要があります。

スポーツに参加する人たちがリスクを理解し、けがの予防やけがの応急措置に対応できるよう講習会も行なっていきます。

老朽化した施設修繕やバリアフリーに対応した施設の改善が求められています。

施策の基本方向

(1) 気軽に親しみ、楽しめるスポーツ環境を整備します。

施策の展開	取組内容
① スポーツ大会、講習会の実施とスポーツ施設の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○ 阿智村駅伝大会を実施します。 ○ 各地区の村民運動会を支援します。 ○ A E D、テーピング等の講習会を実施し、安全管理の向上を図ります。 ○ 多様化するニーズに対応し、様々なスポーツ大会を開催します。 ○ ウォーキングやニュースポーツなど村民が気軽に楽しめるスポーツ環境の整備を推進します。

（2）人間形成の手段としてスポーツ振興を図ります。

施策の展開	取組内容
① 体育団体の活動支援	<ul style="list-style-type: none"> ○ スポーツ団体の自主的活動を促し、スポーツ大会等積極的に支援します。（村民ゴルフ・マレットゴルフ大会、軟式野球大会、少年野球ほか） ○ 「チャレンジゆうAchi」を支援し、各自が必要なプログラムの充実を図ります。

成果指標

指標名	基準値 (基準年度)	目標値(R9)			備考
		数値	単位	期間等	
講習会参加者数	50人 R3(2021)	100	人	年度	各種講習会(※)
チャレンジゆうAchi 会員数	411人 R3(2021)	400	人	年度	
中学校体育館の利用者数	6,703人 R3(2021)	8,000	人	年度	R2は8,892人

※AED・テーピング・ウォーキング講習会参加者合計(R3 未実施講習会あり)

2-6

関連するSDGsの目標



文化活動と地域文化の振興

[教育委員会 社会教育係・公民館]

施策目標 5年後の阿智村を見据えて

住民の文化活動を支援し文化振興を進めます。村の豊かな自然・歴史・文化財への関心を高め、文化財の価値を共有し、保護活動の推進により地域への愛着を高めます。

現状と課題

村内の文化団体の発表の場として、ソフト面として阿智祭等の文化イベント、ハード面として中央公民館ホールなど村内の文化施設があります。コロナ禍のなかでも、できる限り活動が継続され、多くの利用団体・利用者が使っています。また、文化イベント補助事業を活用したイベントも活発に行われてきました。引き続き村民の文化振興を進めていきます。

村内には小黒川のミズナラ、神坂峠園原など東山道関連遺跡群、清内路の手づくり花火、浪合関所跡、安布知神社本殿拝殿など多くの貴重な文化財があります。これら指定文化財の保護のみならず、歴史・文化財冊子作成、各種学習会・展示会・文化財紹介番組の村内放送等が行われてきました。

引き続き指定文化財の保護・調査・公開を進め、また、自然歴史文化に関する学習会、学習教材にも使える自然歴史文化に関する調査と冊子作成を進めます。

施策の基本方向

(1) 住民による文化活動への支援を進めます。

施策の展開	取組内容
① 住民による文化活動への支援を進めます。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 阿智祭など文化活動の発表の場を作ります。 ○ 文化イベント事業を補助します。

(2) 国県などの文化財保護制度を活用し、阿智村に合った保護制度を構築していきます。

施策の展開	取組内容
① 指定文化財保護等を進めます。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 文化財保護法などにもとづいた文化財保護を進めます。文化財保存施設を整備します。 ○ 新規文化財の指定、またパンフレットや村内放送、公共施設などを活用した指定文化財の紹介を推進します。

<p>② 地域の自然、歴史、文化の掘り起こし、見直し、活用をしていきます。</p>	<p>○ 村内の自然歴史文化について調査を進め、それらの成果をもとに冊子作成、学習会・展示会などを行います。</p>
---	--

成果指標

指標名	基準値 (基準年度)	目標値(R9)			備考
		数値	単位	期間等	
公民館利用登録団体数	42 R3(2021)	45	団体	年度	
指定文化財数(村)	70 R3(2021)	72	箇所	延べ	指定文化財数の増加を目指す
阿智祭参加団体数	10 R3(2021)	35	団体	年度	R1年度 バザー13団体 発表23団体